民俗建築アーカイブ㉑　Minzoku Kenchiku Archives㉑

佐藤重夫と厳島民家「写真・図面集」
（その３　吉田家、宮豊家倉庫）

河村 明植

Shigeo Sato and Itsukushima Folk House “Photos and Drawings”: Part 3, The Yoshida Houses, Miyatoyo Warehouse

Meishoku KAWAMURA

本年８月２日に廿日市市宮島町の厳島神社周辺に栄える門前町約 16.8ha が、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

厳島は本学会元会長の佐藤重夫先生(以下敬称略)の思いのたいへん深い地で、昭和 40 年代から昭和 60 年代にわたって厳島民家の調査・研究を行っている。本稿では佐藤が調査した厳島民家について、下記の**「資料 1～資料 3」**に基づいて７棟の厳島民家を３回に分けて紹介することにした。今回は３回目（最終）の報告である。

〈民俗建築アーカイブ ３回の連載〉

・その１（158 号）：⑲ 岩村家（旧江上家）、江上家
・その２（159 号）：⑳ 元･石田家、田中家、熊田家
・その３（本号）：㉑ 吉田家、宮豊家倉庫

【資料】

1)「厳島の民家（第２報)」(日本建築学会中国・九州支部研究報告第２号 昭和 47 年３月）佐藤重夫
2) 民俗建築アーカイブ資料 佐藤重夫「厳島民家 写真・図面集」
3)「宮島町史 特論編 建築」宮島町 平成９年６月

1. 吉田家（北之町西表）

（写真・図面集リスト No.21）

・建築年代：18 世紀後半（江戸中期～江戸後期）
・建築形式：間口４間、奥行８間
木造 厨子２階建、切妻造、桟瓦葺、平入

○アーカイブ資料
・写真　昭和 46 年撮 36 枚(白黒 29 枚､カラー7 枚)
昭和 59 年撮影 22 枚（カラー）
・調査図面 ６枚（昭和 62 年）

(1)（資料 1)「厳島の民家（第２報)」日本建築学会中国・九州研究報告第２号 昭和 47 年３月
佐藤重夫

（Ⅳ）『吉田家』

このお家はやや大形の町屋で間口も４間である。現在は畳屋である関係から「みせ」の間は床が取除かれて、土間になっている。しかし（Ⅲ）で述べたように「みせ」,「おいえ」,「ざしき」と室が通りにわにそってあること、隣家との間の壁柱はすべて建登せ柱で横物がないことなど、やはり厳島民家の特徴そのままである。これは土地がせまいので、隣家の壁に接して柱を建てるための工法上の問題のためと考えられる。しかし表に面した２階は（Ⅲ）の田中家よりは少々建ちも高く、規模も大きい。窓や、肘掛などの格子、木鼻の繰形などその意匠は極めて上等で、しかも変化に富んだいろいろの窓を設けことなどは厳島の大工技術の洗練さを示すものが多く、この吉田家もそういったものの一例を示している。「ざしき」の部分はもともと２間角の８畳に床などのついていたものと考えられるが、古い時代に裏にわ（内庭）へ拡張されたようであり、しかもこの座敷に２階が設けられている。暦年については資料に欠けて、今のところ想像に過ぎないが 18 世紀後半と考えられるものと思う。

2. 宮豊家 倉庫 （北之町西表）

【現存せず】　　（写真・図面集リスト No.23）

・建築年代：江戸後期頃

・建築形式：間口 2.1 間、奥行 6.7 間

木造 厨子 2 階建、切妻造、桟瓦葺、平入

○アーカイブ資料：

・写真 14 枚（カラー）　（昭和 59 年撮影）

・調査図面 2 枚　（昭和 62 年）

〈宮豊家倉庫の表構え〉

厨子二階建てや 2 階の建ちの低い町家の 2 階は、格子窓を付けているが、東町では江戸末期から明治にかけては、太めの横格子を捻った「横連子窓」が多かったようである。この建物も右に横連子窓(与力窓)、左に腰付きの出格子が付く、個性的な意匠である。

3. 旧宮島町家の表構えを復原した展示物について

（宮島歴史民俗資料館）

昭和 49 年 (1974) の宮島歴史民俗資料館の開館時には、資料館敷地の道路沿いに、旧民家の表構えを復原した町並み展示物が造られた。何とかして少なくとも明治の頃の町並みの面影を残そうと、町の各所に散在している旧民家の表側を実測し、旧町並みが再現されている。伝健保存地区制度が未発足の当時において、歴史的な宮島民家や町並みの衰退を危惧し実施された先端的な取組みは、歴史的・文化的な価値が高いと思われる。

「民俗建築アーカイブ」の写真・図面をご希望の方は下記へ申し込んで下さい。無料で提供します。

民俗建築アーカイブ㉑執筆担当　河村明植
meishoku_kawamura
〈myo_yo_kawamura@ybb.ne.jp〉